

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4372800740
法人名	医療法人 潤幸会
事業所名	ひまわり
訪問調査日	平成 21 年 2 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372800740
法人名	医療法人 潤幸会
事業所名	ひまわり
所在地	熊本県上益城郡山都町下市59 (電話) 0967-72-1006

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12 205号		
訪問調査日	平成21年2月26日	評価確定日	平成21年4月10日

## 【情報提供票より】( 21年 1月 30日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9人	常勤	4人, 非常勤 4人, 常勤換算 6, 4

### (2) 建物概要

建物構造	木造鉄骨 造り		
	1	階建ての	階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1250 円			

### (4) 利用者の概要( 1月 30日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	4名	要介護4	名		
要介護5	1名	要支援2	名		
年齢	平均 88.4 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	伴病院 ・野田歯科医院 ・濱町歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宿場町の面影を今に残す、昔ながらの商店や路地が懐かしい環境にホームがある。入居者は日々の買物や散歩で見慣れた建物や自然を目にしながらか地域の行事に職員と共に参加し、顔馴染みの人々に支えられながら穏かな日常を過ごしている。地域に信頼を得た母体病院が医療面をバックアップし様々な協力が得られている。経験豊かな職員が入居者に日々寄り添い、今を大切にしながら親しさの中にも節度を重んじた関係を構築している。本年度は市町村との連携不足を改善点とし来年度の課題としている。地元高校の実習受入れを積極的に行い、福祉の現場を将来就労の場としてもらえるような取組みを行なっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受け改善に向け項目毎に目標を定め地域行事への参加・外出や入浴支援・終末期ケアなどについて改善されたことが確認された。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員で取り組み管理者・計画作成担当者がまとめあげた。今回全員が取組んだ事で職員のホームやケアに対する思い・気づきを確認する事ができ今後につなげたいとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	毎回多方面からの参加を得て定期的に開催されている。ホーム側より活動報告や認知症への啓発の繋がる話を行い意見交換をしたり、参加者より地域行事の情報を得るなど有意義な会議として定着している。今後は議題の事前提示や家族への議事録送付などを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問時や運営推進会議、外部評価を家族からの意見や要望を受ける機会とし、特に家族の訪れやすさ、話しやすい雰囲気作りに配慮している。出された意見・要望については早急に対策を検討し提言者への報告を行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	季節ごとの様々な地域行事に入居者は職員と共に参加している。又、日常的な近隣の散歩での会話や日用品の買物を地元ですること顔馴染みの関係構築に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念と合わせホーム独自の理念の中に“地域社会の一員として生活することを支えます”を掲げ、入居者が生まれ育った地域で生活する喜びをバックアップし、共に生きる支援体制の確立を目指している。	○	三月の業務委員会において、理念の見直しを行いたいとしている。地域密着型サービスとしての更なる内容の充実を期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を事務所内に掲示し職員は日々のケアの規範とし、院内学習会で全員で読み合わせを行い共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	季節ごとに地域の様々な行事に入居者は職員と共に参加し、七月の七夕まつりには笹飾りを出品したり町を練り歩く地元の大祭は入居者の楽しみとなっている。日用品の買い物を地元でする事で、顔なじみの関係構築に努め、日々の散歩で挨拶や言葉を交わすなど地域での生活を支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は全員で取り組み管理者・計画作成担当者がまとめあげた。自己を振り返ることで新たに改善点を見出し一年の締めくくりとして謙虚に取り組んでいる。前回の外部評価後改善に向け項目ごとに目標を定め、地域行事への参加、外出や入浴支援、終末期ケアなどについて改善を確認した。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回多方面からの参加がありホーム側より活動報告、認知症や対応について話を行い参加者の意見交換が行われている。有意義な会が開催されているが、参加されていない家族への議事録送付までは至っていない。	○	今後は参加者へ議題の事前提示や、家族への議事録送付により、共通認識を深め更に有意義な会となるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	他事業所と市町村の関わりをビデオ等で共有し、よりよい関係継続の為、何をすべきかを摸索している。町主催のキャラバンメイトに参加し、今後地域へ向け展開したいとしている。ホーム側は现阶段において市町村との関わりはうすいと感じている。	○	今後は市町村と連携をとり、認知症の啓発や研修会の実践に向けた計画を期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に入居者の近況報告を行い、会話の機会を大切にしている。家族の面会も多くあり職員との安定した関係がうかがえる。離職は殆どなく異動についても面会時に報告している。数名の方の金銭管理を行い、事前連絡のうえ物品購入を行い報告はレシートを送付をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や運営推進会議、今回の外部評価を家族からの意見要望を受ける機会としている。これまで出された意見等に対しては早急に対策を検討し、提言者への報告を行った。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体施設との異動を最小限にどめ、馴染みの関係作りに努めながらもマンネリ化への配慮も行っている。夜勤の勤務者をホーム職員三名と、併設の老健施設より入居者の状態を熟知した三名の職員にて対応している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や郡の研修会への参加や民間の研修会にも参加し、参加職員の復講で全員の共有としている。又、毎月の法人主催の勉強会やホーム内の勉強会にはほぼ全員が参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	郡のグループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行っている。今後も他のホームとの交流を通じサービスの質の向上に活かしたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学や、お試し一日体験を通じて、入居者や家族もホームの雰囲気を感じてもらい、スムーズな生活が行えるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者へは親しみの仲にも敬いの心を持ち、日々のケアにあたる事を心がけている。主婦業の先輩でもある入居者から漬物の漬け方一つにしても、塩加減や漬け具合、食べごろの見分け方等学ぶ事が多々あり、先人の知恵の中で職員も成長する関係を大切にしたいとしている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ゆっくりと一対一での対応を心がけ、入居者の目線に合わせて話を聞くようにしている。意思表示の困難な方や難聴の方は職員で情報を共有する時間を持ったり、他の方以上にゆっくりとした会話を心がけたり、家族と連絡をとり把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重し、ケアカンファレンスで担当職員の気づきをプランに反映して作成している。プランは面会時や電話で家族に報告し同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的及び状態変化に応じて家族と連絡をとり説明を行いながらプランの変更を行なっている。見直したプランは全職員で共有しケアの統一を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他科受診の同行や買物支援、ふるさと帰宅支援など柔軟に対応している。母体の大型車使用や管理栄養士による栄養管理、緊急時や有事の際の避難訓練など多くの協力支援が得られている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医療機関をかかりつけとし受診時の付き添いを行い、家族へ報告をする事で安心を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けては本人や家族の希望を最優先とし、今回家族の意向を受け母体医療機関の協力のもとホーム内で看取りを行なった。亡くなる直前まで食事を摂られる等職員と入居者が一つになって支援した。その後の入居者の精神的ケアにも最善をつくしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を大切に普段の会話には方言を交えながらも節度には十分配慮している。法人でのプライバシーの勉強会に参加し、トイレ・居室入室の際は必ずノックする事や、大切な書類は事務所に管理し、家族の連絡先などは掲示せず、必要時に取り出すなど個人情報の取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、健康管理には十分配慮しながら、本人のペースで起床や入浴時間、希望に応じて献立の変更など入居者のその時を大切に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備片付けなどできる事を一緒に行っている。又、作業中の会話も手伝いの一環として捉え参加してもらっている。職員も同じものを同じ時間に摂ることで話題を共有し、好みや摂取状態を確認している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間は一応決まっているが、要望された折には対応し、必要に応じ手・足浴・シャワー浴等を支援している。柚子や菖蒲などの季節風呂や温泉施設を利用も行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や洗濯物たたみ掃除、裁縫・編み物などができる入居者ができる事を見守り支援している。散歩の途中での本屋への立ち寄り、訪問販売のパン購入も楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の体調を考慮し、近隣の散歩や散策、商店街での買い物などできるだけ戸外への外出を支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害は全職員理解し、ホーム前の車道など安全に配慮しながら鍵を掛けないケアの実践に取り組んでいる。不穏やホーム外に出たい入居者へも寄り添いや見守りによって自由な行動を支援している。。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体と合同での避難訓練や、年二回の消防訓練を実施している。避難訓練では通報の連携不足や誘導の際の声の出し方等指摘を受け今後の課題となっている。	○	消防署よりの指摘事項を全職員で再度確認し、今後の訓練が有意義なものとなることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は記録に残し、水分も三食時の汁物、おやつや食事時のお茶、入浴後など水分確保に努めている。母体管理栄養士により個々に応じた栄養管理が行われており、ホームでの献立においてもアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビング、洗面所は季節の花や掲示物により和やかな雰囲気である。トイレ内には、プライバシーに配慮した入居者手作りの暖簾がさげられている。リビングのソファや畳のスペース、ギャラリーの間など入居者がゆっくり寛げる空間を大切にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力により、それぞれの居室はカレンダーや家族の写真、愛読書などが持ち込まれている。居室入り口も混乱されないよう名前掲示もその方の目線にあった高さとしている。ホーム内は環境面にも配慮した消臭、除菌液を使用している。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ひまわり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡山都町下市59番地
記入者名 (管理者)	澤村 京美 (豊野 恒子)
記入日	平成 20年 1月 5日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている 医療法人潤幸会理念 ひまわり理念	○	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる 施設内教育の時間で、理念についての勉強会	○	定期的な読み合わせ
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる ・入居時の説明 ・玄関の掲示 ・地域連携会議の活用 ・医療法人潤幸会の1回/2ヶ月の介護教室		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている 散歩や買い物など外出の際に挨拶し、声を掛けてもらったりしている。お花や野菜を頂いたりしている。		冬季は暖房のため玄関は閉めている。夏季は外出も多く外に座ることもあるので、通行人、近所の方と触れ合うことは多い。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている 地域の行事の案内を頂、祭りに参加したり、お誕生会の行事などに踊りなど出し物で参加していただいている。	○	地域の行事への参加ができるようになった。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護教室や地域の公民館に出向き、家庭で出来る感染対策などの話や実践を行っている。	○	地域でも一人暮らしの高齢者が多いと民生委員の方から聞いている。散歩コースでの一人暮らしの方の安否確認が出来るように声掛けしていけたらと考え、今後運営推進会議などで検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		○	業務に慣れてマンネリ化しないよう、外部評価での指導事項を謙虚に受け止めていく姿勢を共有する。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では毎回ケアの内容や問題点など報告し、行事などの参加を呼びかけ又参加もしていただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あまりない。	○	他の地域の事業所が市町村との取り組みなどのビデオを見、今後当地域での連携の強化につながればと、呼びかけはしている。認知症キャラバンメイトの参加などで今後は連携の機会が増えると思われる。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	去年は町の職員に来ていただいて、権利擁護の講習会を開いたが、今年は何もしていない。現在ひまわりでは当事者がいない。	○	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内学習会で虐待の勉強会を行っている。		施設内研修で「虐待について」など具体的に探り、自分たちの言動をお互いに注意しあう体制作りをする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はもちろんのこと、事前に見学試し利用など行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの見直し等でスタッフに関する要望などあり、ケアカンファの際話し合っている。	医療法人潤幸会の他施設への苦情も家族が事務室に提言されている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来訪時、ケアプランのモニタリングなど家族に近況報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から出た意見は、ケアカンファなど職員に伝え話し合ったりはしている。	○ 家族や利用者の提言は検討後対策を含め、提言者に委員より伝えている。(例)服装など
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時や又業務上でた要望、意見などはホーム長から管理者に伝えられ、可能なことはすぐ実行している。	○ 内容により運営者・管理者も話し合いに参加し、意思の疎通を図りたいと考えている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	他科受診の際、家族も高齢であり長時間の付き添いは避けられることが多い。付き添いの希望が出ればそれに合わせ勤務の調整を行っている。	・家族の外泊 ・潤幸会事務長と人員配置についての話し合いを随時行っている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	考慮している。(夜勤者など同じ職員を出来る限り少人数にし、利食事などの影響を少なくしている。)	移動は少人数にとどめながらも、マンネリ化によるダメージがないようにしたい。他施設からのホームの夜勤者へ、客観的な意見を聞くようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、特に上益城地区主催の研修会への出席</li> <li>・民間などで行っている研修会の情報の提示をし、希望する研修会への出席を勧める。</li> <li>・CM研修会のうち、スタッフを含む研修会への出席</li> </ul>	<p>地域に積極的に出て行き、認知症に関するだけでなく、感染についても話す機会があれば行っている。</p>
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上益城地域の研修会出席</li> <li>・co.careなどの研修会出席</li> </ul>	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告、連絡、相談が出来やすい体制づくりをして、対策への早めに対応できるようにしている。</li> <li>・法人内での行事に参加して交流を図る</li> <li>・勤務表に本人の希望を組み込むことへの支援</li> </ul>	○ 左記を尚一層充実させていく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同業者の情報を知った上で、職員の技能や個性等に合わせ、勤務表作成や役割分担をしてあるかの確認。</li> <li>・長所を認める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的・民間を問わず、医療法人潤幸会に来る情報を共有化している。又、希望の研修会は出張伺いを出す。</li> <li>・潤幸会内の研修会の講師を努める。</li> </ul>
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<p>いろいろな家族から情報収集をして、本人の嫌がること出来ないことを把握し、できるだけ不安なく過ごせるように努めている。</p>	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	<p>面会時ゆっくりお茶を飲みながら話をしている。また、情報収集や利用者の近況報告をしている。</p>	<p>グループホームがいかなるものか、再度面会時などにお話している。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	社協などから相談をうけず見学に来てもらい、本人の状況をうかがう。空き状況もあるが、在宅支援センターに相談したりしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まずは見学してもらい、状況によっては試し入居、日帰り利用を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	主婦業が長い方ばかりで、漬物の作り方や裁縫などそれぞれ得意なことをスタッフが教わる場面も多くあり、相手を尊重し、やる気を大さく手くれるような関わりを心がけている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来訪時、ゆっくり会話できる場所の設定をし、忘年会、誕生会等の催しに参加してもらったり、帰宅できるようには促している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	たよりやケアプランの作成時などに定期的な状況をお伝えしている。	○	なるべく、行事への参加や帰宅できるように促してはいるが、応じてくれる家族は常に同じであり少ない。家族に事情もあり無理強いも出来ずにいる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人暮らしをしいた方など自宅の状況を近所の方に尋ねたり、帰宅した際訪問したりしている。また、買い物や地域の祭りなどであったときなどゆっくりはなせるように見守っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	歩行困難な方は座ってできる洗濯物たみなどしていただき、できる方は出来ない方のお手伝いをしていただいている。こちらから声掛けせずとも、さりげなく助けてあげる場面が多く見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在対象者がいない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時家族、本人からの意向を聞き、又モニタリング時ケアプラン作成時に本人または家族の意見を聞いている。又散歩の際ひとりになったときなど希望を聞いたりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際、ご家族に尋ねたり入居してからも本人との会話の中で情報収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	低下する機能を見逃さないように、その日の状況に合わせて散歩や体操生活リハビリの支援を変更し、個々その日可能な状況を理解し対応している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリング、ケアカンファレンス、申し送りの内容。あと介護記録を見直しアセスメントしてプランは作成している。家族には面会時や電話で話し合い、本人の意向も伝えている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急激な変化があったとき、まず報告しプランの変更や付け足しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録の見直し、ケアカンファレンスのスタッフからの情報を含めモニタリング捨ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他科受診の付き添い。帰宅支援など個々必要時している。		
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事のときダンスなど出し物、バスハイクの付き添いをしてもらっている。夜間避難訓練の参加。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	対象者がいない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	対象者がいない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時受診時の付き添い、予約などしている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	定期受診や何か変化があったときなど相談している。	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	介護サマリーなど細かく情報を伝え、また様子を見に行っている。	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	アセスメント時プラン説明時又状態が変わった時等、話し合いを繰り返している。その後スタッフに方針を伝え情報を共有している。	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	本人の安楽を考え、家族と話し合い、状態に応じてひまわりで出来ることを行っている。医療行為が必要な場合は、入院となるが家族が希望する場合ひまわりで最後まで看取っている。	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	介護サマリーなどで細かく情報を伝えている。又その後の様子を見に行ったりしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	毎食の片付けなど、できる方が決まってしまうので、負担に思われ当番制にしてほしいといわれたりするがそこには至っていない。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	頻尿で、時折尿失禁されるのでトイレに行かれているときに、下着を交換したり、散歩など何かする前にトイレの声掛けをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	寒いとき足浴や汗をかいたときにシャワーなど使ってもらっている。いつもは入浴を拒否されるが時折思い出したように、『お風呂はいる』と言われるときは、すぐ入ってもらっている。	○	入浴日と入浴時間は一応決まっている。スタッフの都合上夜間入浴は行えていない。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方の行動は制限していないので自由に横になったりされているが、あまり遅くなるときは、声掛けしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	能力に応じて、裁縫や編み物、なぞり書きなどをしてもらっている。又ガーゼたたみやちり紙たたみ、花壇の草抜きなど作業もしてもらっている。散歩の途中で本屋に寄ったり気分を変えてみる。	○	七夕まつりコンクール向けの作品づくりは皆で行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問パン販売。近くのコンビニなどに見守りはするが自由に行ってもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	遠出可能の方、遠出は疲労される方いろいろ居られる。散歩コースもその方の能力にあわせ距離などを決めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的にバスハイクやイベントの見学など行っている。本人の希望、本人のその日の状況によって外出支援している。	○	旅行を検討中、費用家族の都合でまだ行えていない。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠い家族にひまわり便り、電話をかけるなど声掛けまたは介助。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	遠い家族に宿泊してもらったりしている。1泊750円(ふとんリース代光熱費など。)	○	以前は近所の友人宅に訪問したりしていたが、友人の高齢化による体調不良などで足が遠くなっている。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、院内教育で拘束についての勉強会が行われている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアにベルをつけているのでいつも鍵はかけていない。夜間は防犯上施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	監視しているという雰囲気にならないように心がけている。一人で買い物に出たがる方は道路を横断するときだけ付き添い、あと離れて見守り、また、行かれる店の人に頼んだりしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	昼間、台所の片付けや付近の消毒までされる方が居られるので、自由に出せるようにはしているが夜間は施錠している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤飲事故あり、個々の飲み込み状況他者の介入など、注意を強化している。コンロを使われるので、衣類の燃え移り、やけどなど注意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	マニュアルはあるが、定期的な訓練は行えていない。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方、家族、運営推進委員、消防署、併設の職員入居者が参加し、夜間に自動通報装置を実際可動させ訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプランの説明の時などに話し合っている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	細やかな申し送り、(介護記録、申し送り簿)ケアカンファ時に個々の疾患状況、治療方針など伝えている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各引き出しに内服薬の説明書を入れて常に確認できるようにしている。指示変更があった場合は、申し送ったり、している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給、定期的な運動(腹部のマッサージなど)必要時下剤の使用を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食の義歯洗浄、歯磨きの声掛け、必要時歯科受診。能力に合わせて自分で洗浄したり、また介助したりしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回摂取量は確認している。定期的な水分補給、栄養は管理栄養士が管理している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染対策マニュアルを作成している。感染対策の勉強会。感染性胃腸炎発生時の時排泄物処理セットの準備、または処理方法の実演など行っている。咳エチケットの遂行に努めている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒、まな板など調理器具の消毒を行っている。冷蔵庫の整理。また各お部屋に食べ物を持っていかれるときもあるので、チェックをしている。	
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>			
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は冷暖房を使用していないときは開けている。ひまわりの花壇にチュウリップや季節の花を植え、近隣の人に楽しんでもらったりしている。夏場ひまわりの前に椅子を置き、夕涼みをしたりして、近所の方とお話したりしている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室は汚物処理と同じ空間になるので、カーテンで遮っている。季節のお花を飾ったり、散歩時とってくる実や葉でタペストリーを作ったりしている。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子、またはギャラリーに椅子を置きゆっくりできる場所を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好んで読まれていた本、家族の写真など持ってきてもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除中の換気、夜間の室温を注意して必要時換気やエアコンで調整している。		
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人の動線に配慮して検討している。個人に合わせた作業台。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人のペース能力を把握した上で声掛け介助をしている。部屋をまちがう方にわかるよう、その方の目の高さにあわせて名前を張っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	花壇の手入れ。畑の手入れ。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・何か変化があればすぐに対応できる医療体制は整っている。ゆっくり落ち着いた雰囲気である。